

南ア 白根三山縦走～お花畑と富士眺望の絶景ルート～

【報告者】K崎 (8/12-13)、みっちー (8/14-15)

【日時】2018年8月12日～15日 【天候】晴れ時々雨

【参加者】みっちー (CL)、K崎

《コースタイム》

【8/13】起床3:00～4:40 広河原山荘～7:08 大樺沢二俣～(右俣コース)～10:13 北岳肩の小屋(水場) 10:41～11:18 北岳(3193m) 11:52～12:42 北岳山荘(山荘素泊まり)(行動時間:8時間)

【8/14】4:20 北岳山荘～5:10 中白峰～6:10 間ノ岳～7:00 農鳥小屋 7:20～8:30 西農鳥岳～9:15 農鳥岳～10:00 大門沢下降点～12:40 大門沢小屋(行動時間:8時間20分)

【8/15】4:30 大門沢小屋～5:50 八丁坂～6:40 大門沢登山道入口～7:20 奈良田第一発電所～7:50 町営奈良田温泉女帝の湯(行動時間:3時間30分)

《移動》

【8/12】博多駅6:10＝(新幹線のぞみ)＝10:54 新横浜駅 11:16＝(JR快速)＝11:55 八王子駅 12:01＝(JR特急かいじ)＝12:01 甲府駅 14:05＝(山梨交通バス)＝15:58 広河原バス停

【8/15】奈良田温泉バス停9:50＝(早川乗合バス)＝11:20 身延駅 11:38＝(JR特急)＝13:02 静岡駅 14:10＝(新幹線ひかり)＝16:00 新大阪駅 16:05＝(新幹線のぞみ)＝18:33 博多駅

《報告》

【8/12】

もともと11日の出発だったが、12日の天気予報が悪かったので出発を一日繰り下げた。おかげで、全て指定席が予約でき安心して旅立つ。初日は移動のみなので、早速景気づけに朝から新幹線でハイボール。(K崎のみ)

列車かいじの車内では、南アルプスが地元で帰省中の山梨ダンディと話がはずみ、高級築地玉子サンドのおすそ分けをいただく。甲府駅のバス乗場では、西新から今日出発し、北岳に向かうY崎ご夫妻に会う。聞けば、北岳山荘にみっちーと共通の友人がいるとの事。世間せますぎでしょ。そんなこんなで夕方に広河原キャンプ場に到着。

野呂川沿いのテン場は超快適。テント設営して、夕食を食べ、まったりしようかという時に雨が。テントに逃げ込み、明日に備えて早々と就寝。雨は結構激しくテントを叩いていた。

【8/13】

3:00 起床。朝一から雨に濡れたビショビショのテント撤収は、本当に気が滅入る。雪山なみに準備に時間がかかってしまい反省。

4:40 出発。今日は、標高差1600m以上の登り。夜が明けないうちから、大樺沢沿いの登山道を登っていく。沢沿いは涼しく、高山植物たちに心癒やされる。2時間半程で大樺沢二俣着。ここには、パイオトイレが設置されている。雪渓が残る左俣の先には、憧れの「北岳バットレス」の勇姿を仰ぎ見ることができる。この沢を詰めてバットレスに取り付くのかあと、長年の想いを馳せる。

二俣からは右俣コースをとり、北岳肩の小屋を目指す。ここからの登りは、暑さとジグザグ登りでかなり体力を消耗した。ただ、お花は途切れることなく咲いており種類も多かった。(名前分らず)



小太郎尾根分岐あたりからガスりはじめ北岳肩の小屋に到着。ここで、25人のガイドツアー客と一緒に、彼らは大名行列のようになって北岳を目指して登っていった。ガスが晴れるタイミングをはかって北岳を撮影。水を補給し、ゴツゴツの岩稜帯を登り、北岳を目指す。あいにく北岳山頂ではガスっており、パノラミックな眺望を見ることはできなかったが、国内二位の高峰である。(3192.5m)

ひととおり記念撮影を済ませたところで雨が。雨具を着て、北岳山荘までひたすら

下っていく。雨足はどんどん強くなり、濡れた岩でスリップしないよう、母趾球で踏ん張りながら下り、12:42北岳山荘着。

夜も天気悪そうなので、テント泊はやめて小屋素泊まりに変更する。自炊スペースの横に畳敷きの六畳程の部屋があり便利で快適。北岳山荘で働いているみっちーの友人(その日は仕事休み)と、Y崎夫妻を交え、談話室で昼から小宴を開き、まさかの福岡県人会で盛り上がる。さらに、素泊まりスペースで一緒のN村夫妻も福岡県朝倉から来たとの事で、さらに大盛り上がり。今回は、人との素敵な出会いに恵まれて終始楽しく、思い出深いものになった。

夕方から晴れてきて、山荘の外に出ると、山々の稜線と雲海との景色が美しく、また貴重なブロッケン現象も見ることができて感動。今日も明日に備え、早々にシュラフにくるまる。

【8/14】

3日目は今回の山行で一番行動時間が長く、また午後からは雨予報のため3時起床。私たちは自炊スペースの隣部屋で就寝していた為、朝食や準備がとても楽で助かった。

4:20まだ暗い北岳山荘を後に中白峰を目指す。しっかりした踏み後がある登山道をジワジワ上がっていく。しばらくして振り返ると北岳山荘の光と赤い屋根が下に、更に後方に大きくて黒い北岳の山影

が見え、山頂付近に小さなヘッテンの明かりが2ツ~3ツ動いている。山頂からご来光を見る為だろうか。

歩きはじめて20分もすると空も明るくなり始めたので、ヘッテンをしまい上着も脱ぐ。周囲が明るくなると、切れ落ちた稜線の先に、雲海に浮かぶ富士山と朝やけの空が見えた。あまりの美しさに、私もK崎も歓声を上げながら何度も立ち止まり写真を撮った。実はこの後、西農鳥岳までの稜線歩きの間中、お天気も味方してずっと富士山の美しい姿を望むことが出来た。



北岳山荘を出て約50分で中白峰(3055m)、更に1時間で百名山の間ノ岳(3189m)に着いた。広々とした山頂にケルンがあり、三峰岳方面、北岳方面、農鳥山方面の登山道の合流地点である。正面にはこ

れから向かう農鳥山が見え、後を振り返ると北岳や鳳凰三山が、東側には富士山が遠方にそびえ立ち 360 度の絶景であった。私は今回の山行で、この間ノ岳から眺めた景色が一番印象に残っている。また昨日の北岳に続きこの縦走路も高山植物が多く、特に黄色いトウヤクリンドウは随所で見かけた。間ノ岳から農鳥小屋に向かう登山道ではチングルマが群生しておりふわふわした綿毛の可愛さに癒された。

7:00 農鳥小屋到着。有名な小屋主を遠目に観察…愛犬と散歩されており普通なご様子でホットする。20 分ほど小休止して西農鳥山を目指す、山頂に近づくとつれ急登で休み休み登る。西農鳥岳 (3051m) に着いたあたりからガスが出始め、東側の農鳥山の稜線が所々見えなくなる。農鳥山へ向かう登山道は岩稜帯で、稜線の西側をまく細い道のアップダウンを繰り返しながら進んだ。



9:15 二百名山の農鳥山 (3025m) に到着。稜線上の細長い山頂で数名の登山者が休んでいた。私たちも小休止をとる、歩いてきた

間ノ岳は山頂がガスに覆われ全貌は見えない。ここから大門沢小屋まで基本下りとなる。稜線をしばらく進んだ後、稜線を外れ東側に下った方角に大門沢下降点がある。石積のケルンと鐘の付いた黄色い慰霊塔があるので分かり易い。この後はひたすら急坂を下る。40 分ほどハイマツ帯を蛇行して下り、その後は樹林帯の急坂となるが左手に沢が見え始めてもなかなか小屋に着かず、大門沢下降点から小屋までの下り 3 時間が長く感じた。途中 11 時頃から小雨が降るが樹林帯の中なので雨具を着ることもなく 12:40 には大門沢小屋にたどり着いた。

この日は午後の降水確率が 90%と聞いた為、小屋に素泊まり (4000 円/人) して早々に外の自炊場で宴会を開始。トイレはお世辞にも綺麗と言えないが、水が豊富で美味しく、晴れば富士山が見えるらしい。私達の後に到着した登山者は、びしょ濡れの雨具で下山された方も多く気の毒であった。この日も明日に備え 19 時前に休んだ。

【8/15】

3 時起床小屋で荷物をまとめ外の自炊スペースで朝食と荷造りを済ませ、4:30 真っ暗な中、大門沢小屋を出発。昨日奈良田への下山路を下見していて良かった。沢沿いの登山道は大きな岩や段差の連続で足場が悪い為、テープや目印を頼りに慎重に進む。20 分ぐらいすると登山道自体に水が流れ、小さな沢を下っている状態が続いた。大雨の後は厄介な道になりそう。小屋を出てすぐに上ってくる登山者 2 名とすれ違った。この後も 4~5 名とすれ違ったが 1 名を除きすべてトレイルランナーであった。軽装だが皆さん日帰りされるのだろうか?などと K 崎さんと話しながら下る。

5:30 頃小尾根をまいた小さな峠に出る。周囲もすっかり明るくなり、このあたりから美しい森を進む。山と高原地図に「南アルプス屈指の大木の美しい森」と紹介されているがその名のとおりで、緑の木々の美しさに何度も足を止めて撮影するが、写真ではその森の奥行きや色合いが全く表現されず、皆さんにお伝え出来ないのが残念である。

その後、八丁坂と呼ばれる九十九折の急坂を沢付近まで下る。何度か大小のつり橋を渡り、発電所取水口の貯水池の横を通り大門沢登山道入口に着いた。登山道入口の手前は工事の為 10 分程度う回路を歩いたが案内がしっかりしており迷う箇所はない。大門沢登山道入口から舗装道路を 1 時間歩き、7:

50 奈良田温泉に到着した。

「町営奈良田温泉女帝の湯」は、夏場だけ登山者の為に8:30から営業されている。(一人550円)ぬるぬるの美肌湯で一番風呂につかり旅の疲れを癒しビールで祝杯を上げる。高台の温泉施設の真下にある奈良田バス停から帰路についたが、博多までの間に反省会が繰り返されたことは言うまでもない。

【感想】 みっちー

今回の山行は天気予報が微妙な中での出発でしたが、事前にK崎さんに積極的に情報収集いただき心強かったです。(山行中、auほどの山域でも繋がらず、全く機能しませんでした。ドコモのみ)

また、基本早立ちをした為、午後からの雨に遭遇した日は13日の1~2時間でした。

事前の準備から、出立後の相談までお互い遠慮なく意見を言いあえストレスの無い充実した山行になり、改めてメンバーシップの重要性を実感しました。K崎さん本当にありがとうございました。